

#### 第4回第5期中海自然再生協議会議事録（案）

開催場所：鳥取県西部総合事務所第17会議室

開催日時：平成28年6月11日13:30～16:00

第2期実施計画策定に当たり、4月末を締め切りとして行った13件のアンケート結果（配布された議事資料に掲載されている提案①～⑬に対応）をもとに、それぞれの提案者から提案内容について5分程度の説明が行われた。冒頭、レガッタやSUPによる湖岸の利活用に関するアンケート結果が漏れているとの指摘が提案者からあり、当日この1件が事業計画として追加され説明も行われた（提案⑭とした）。

14件の説明終了後、参加者から、全体構想に示されている取り組みと今回の事業計画との関連について質問があり、事務局からは、目標を達成するための5つの推進の柱のもとに進めるが、全体構想に示されている細かな取り組みとは特に整合する必要はないとの説明があった。また、1期計画と比べ科学的知見によって進める計画が少ないのではないかと指摘があり、これに対して事務局からは、自然再生基本方針が2003年の推進法施行以来2度改訂されており、1回目（2008年）の改訂では地域の産業と連携した取り組みが新たに基本的方向に加えられ、2回目（2014年）の改訂では自然再生の役割として「花鳥風月」や伝統的食文化、地域コミュニティの維持・再生などの文言が新たに加えられていることや小さな自然再生の推進が求められるなどしていることから、基本方針の変更に応じて実施計画の内容も変化しても問題ないとの回答があった。

その後、実施計画策定の今後の進め方について、事務局がホワイトボードを使用して説明を行った。第1期の4つの実施計画のうち、今回アンケートの提出の無かった「海藻類の回収及びその利用事業」は継続、「浚渫窪地の環境修復事業」についても継続とし、提案①、②、③を軸にして新たな実施計画の検討を進めること、「アマモ場の保全・再生事業」については今回新たに提案された「中海浅海域における有用二枚貝の復活と地域と連携した維持管理の検討」（提案④）に含めて検討を進めること、「砂浜の保全・再生事業」については今回新たに提案された「中海湖岸域のデザインを介した利活用の活性化」（提案⑦、⑧、⑨、⑩と⑭）に含めて検討を進めること、そして⑤と⑥を合わせて「恵みプロジェクト（仮称）」の実施計画を検討するという提案が示された。但し、集水域を対象にして中海における物質循環を解明するという③については、他の実施計画とも絡むので、今後の位置づけについては協議会で今後も検討することとなった。また、今回、案として示された5つの実施計画以外にも、まだ提案は可能であること、今後の実施計画の策定は分科会の形で協議会の開催（9、12、3月の3回開催予定）とは別に進める必要があり、「海藻類の回収及びその利用事業」は渡部氏を、「浚渫窪地の環境修復事業」は樋野・桑原両氏を、「中海浅海域における有用二枚貝の復活と地域と連

携した維持管理の検討」は川上氏を、「中海湖岸域のデザインを介した利活用の活性化」は熊谷氏を、そして「恵みプロジェクト（仮称）」は小倉・上田両氏をそれぞれ旗振り役とし、分科会の進め方等について今後事務局のほうで取りまとめることとして閉会した。